十一月廿五日夕刊

常磐毎日新聞

日曜祭日の翌日休刊

定價一部金貳錢　月金五拾錢　郵税五厘
廣告料五號十二字詰一行金五拾錢
日曜祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人　川崎文治
福島縣石城郡平町長橋町三五
發行所　常磐毎日新聞社
電話六三〇番
印刷所　常磐毎日印刷株式會社

一切は如來なり

眞繼雲山

（二）

一實眞如とは第一義諦であつて、よく言説の及ぶべきなきも、われ〳〵の現身が、それの化現であるといふことだけは分る、既に化現である以上、水と波との別こそあれ、二者は全く別のものではない。こゝのところを曇鸞大師は、

法性法身によりて方便法身を生ず、二法身に二にして分つべからず、一にして同じからず、

と釋されてゐる。一にして同じからぬのは緣によつて分峠するに由るのであるもその眞俗は二にして分つべからずといふ以上、私たちも亦た如來の一派生として因緣によりて生じたのであり、一切の化法は又これ如來ならざるものはない、尊勝陀羅尼にサラバタタギヤタ（譯して一切如來）の句が繰り返されてゐるのは惟ふにこゝの説示であらう、生死事大といふも蓋し一切如來海中の一小波紋であつて深く頓着するにも當らぬ、況んやこの化身は必至滅度（滅して必ず彼岸に渡る）なるをや。

基督敎の神は萬物を創造するといふも、その威神力は創造後の罪の子が神の手に卒えない事となり、神と人間とは永久に對立の外あるまじと思はるゝも佛敎の説くところは一切は如來なりとする以上佛と凡夫との對立は暫らく迷へる間の假りの談議であつて、葛藤を徹せんには實には生佛一如凡聖不二である。そこに草木國土悉皆成佛の原理がある如來とは正に斯くの如きものであつて、他宗敎の神に比し本質的にその立場を異にするものである。完

ノート

五目鮨の味加減は他の鮨でも炊き立ての熱い御飯を器に移して直ぐに酢鹽と砂糖を少量加へたを振りかけ團扇で煽ぎながら攪きまぜなければ味美しくありません、それから前以て用意してゐる種々の材料を入れるのです

高月會句抄

（三）

蕎麥

あちこちの蕎麥畑白し後の月　芝草
大寺の背戸山畑や蕎麥の花　芝草
砂土手や西日寒むけり蕎麥畑　湖晴
山の端の畑一帶にそば白し　耕影
山莊に隣る凹地や蕎麥白し　耕影
蕎麥の花に家飛びとびの在鄙哉　天仙
山の陰となりて眞白きそばの花　天仙
蕎麥かきに舌鼓打つ峠茶屋　閑月

笑話

老人「年を老るとどうも記憶力が鈍くなつて不可ん、どうも物忘れをしてかなはん」

客「物忘れしないいゝ法がありますよ」

明日の献立

【朝】きんぴらごぼう
【晝】あぶり餅　ねぎのすまし汁
【晩】里芋　こんにやく
がんもどき　ちくわ
ねり　からしの煮込

老人「ホーそれはどんな法ですか」

客「試しに私に百圓ばり貸して見て御覽なさい」

改築披露
最新式設備ト
進步セル技術
岡山寫眞館
電　六一五

どんな病でも必ず治る
オキシヘーラー
オキシヘーラー　は心臟の働きをく正しく强し、如何なる難症も熱心繼續治療によつて必ず治療す、殊に急性症の治りの急速なること眞に驚嘆の外なし、
◎盲腸炎、腹膜炎、胃腸諸病、食物中毒、中耳炎、腎臟病、膀胱喘息、骨膜炎、丹毒、流行性感冒、氣管支カタル、肺炎、神經痛、リウマチス等にて高熱や激痛に惱まさるゝ方、心臟の弱りたる方、其他如何なる急慢性症の方も時をうつさず當實驗所の治療に依つて速かに御快癒なされん事を
オキシヘーラー　は餘りに手遲れにならざればどんな病も手術の要なく完全に治療す。
治療料一回金五十錢、出張治療町内一回金壹圓
但し出張治療は場合により異ることあり。
七ヶ郡一手販賣と實驗治療　原田良節
オキシヘーラー　平實驗所
平町田町役場通り四九

葬具と霊柩自動車御用達
▼新らしく安い
造花は
平町新町川町
橋本屋
電話一六三番

一間か三間位の住み心地よい文化住宅
最初からお金が入らずに好な場所へ好な家が十圓位の家賃を拂つて住んで居る中に五六年で自分の家となる方法
俸給生活者絶好の機會
◇月賦建築（第一回申込受付三十戸限）
—御希望者は至急御相談にお出下さい—
平町南町十一番地廿三夜尊側
寶商事社　伊東一

磐城セメント會社特約店
磐城平町五丁目　電話九番九九番
□良品廉賣に勝る商略なし
□確實敏捷は久の生命なり

イヤ！　君！
いゝ冬服を求めたね
斷然三二年型だよ
いやコレカネ！
例の……「リレ」
正札堂さ
平町四丁目停場車通電四三六

暴風雨被害者に
稅金免れ要望
其他政府米特別拂下や
復舊資金融通等を陳情
濱三郡聯合會議

既報濱三郡農會長及び町村支會長聯合の暴風被害對策の協議會は昨廿四日午後一時より石城團体事務所樓上に開れたが其結果食糧補充策としては麥作の奬勵を行ひ稻流失を見た農家には馬糧の藁を各町村が融通し合ふ等の自立策を可決した外左記の如く國家及び縣に救濟方を陳情する事に決定して午後四時散會した

△國に對する要望

一、罹災者に對し政府米特別拂下に關する件

二、災害地地租免租の件

三、橋梁に要する材料特價拂下の件

四、農業土木工事費利率低下の件

五、災害復舊資金融通の件

六、負債償還五ヶ年間延期の件

七、農業保險法實施に關する件

△縣に對する要望

一、罹災農家に對し種穀料給與の件

二、罹災者に對し肥料資金特別融通の件

三、罹災者に對し特別地稅免除の件

四、災害復舊工事額五百圓未滿の個處なるも數ヶ所にして五百圓以上に達する場合も認られたきこと

五、耕地の流失復舊費に對し七割以上の補助の件

六、漁具漁船の流失新調に對し五割以上補助の件

七、罹災者に對し漁業稅を免除の件

の件、前組合管理者伏見彦衛氏への慰勞金贈呈等に就いて協議したが豫算の更正は今回の暴風雨被害五千三百十圓に對し三千三百九十五圓の縣費補助を申請する事になつたものであると

教育總會出席

平第一小學校にては既報の如く來る二十七日双葉郡富岡町小學校に於て開れる東部聯合教育總集會に古川及び横田の兩訓導を出席せしめると

三千四百圓の
縣費補助を申請
平町外二ヶ村惡水豫防組合

平町內鄕飯野二ヶ村惡水豫防組では本日午後一時より平町役場會議室に總會を開き豫算の更正並に寄附採納

悲運に打負されて
病訓導逝く
同時刻に妹も他界
淋しい枕頭

悲運の病訓導として各方面から同情されてゐた元平第二校訓導四家安男氏は教へ子達の誠心や共濟委員會を始め町內各方面から寄せられた溫い情に感激の涙を流しながら昨夜渡邊醫師の手厚い看護を受けつゝ久保町の自宅で永眠した枕頭には肉身者の誰一人看る人とてもない淋しい其の

臨終の

姿は生前の悲慘な生活にも增した痛ましいものであつた、唯一の看護人であつた四家氏の養父も娘トミ子(二)訓導の妹—急病の報に千葉縣我孫子町に歸宅看護してゐたがつながる緣の不思議にも四家氏と同時刻に死亡した旨電報あり重ね〳〵の

不幸事

に近親者とても無い爲め家主永山氏を始め津田校長や附近の人々が集まつて今夕五時さゝやかな野邊の送りをする事となつた

待たるゝ
明日の
第二回戰
磐中平商共に勇躍

昨報磐城中學校對平商業學校の野球第二回戰は明日午後一時半より磐中グランドに於て行れるが兩校共陣容を一新し攻擊に守備に夫れ〳〵策戰を凝して居り興味ある試合を期待されて居る

木炭不足から
一俵五七錢値上

濱三郡木炭同業組合員中には過般の暴風雨の被害を蒙つた者が多數あり製炭所を破壞された儘となつて居るのや道路の修繕が出來ぬ等の關係で木炭の山出し能力を半減され需要期を控へた平町の木炭小賣人間では早くも品不足を告ぐるに至り自然木炭の小賣値が各俵共五錢乃至七錢位の値上を呼んで居ると

教育視察に
三氏を派遣

石城教育部會にては今回平第一の坂內伊貞、宮の梅森信、一大野の鷹崎竹藏の三氏を群馬、長野新潟各方面へ教育視察員として派遣する事になつたので來る二十八日の平發午前七時二十五分にて出發するが期間は一週間の豫定であると

俵裝實地
講習會を開く

石城郡玉川村烏部落農事實行組合では來る廿八日午前十時より組合長方に於いて俵裝實地講習會を開くが赤井村農事實行組合でも廿七日午後一時より同村小學校に同講習會を催すと

縣費補助
申請締切
總額一萬三千圓

平土木監督所では暴風雨による各町村の災害復舊工事縣費補助申請を去る廿四日を以つて締切つたが當日迄に申込んだのは平町、山田玉川等四ヶ村で全部河川の改修であり申請總額は一萬三千圓であると

貸家廣告

平驛前目拔の場所
三階建一棟七十坪
（御相談に依つては分割貸も致します）
—家賃其他委細面談—
平町五丁目吉田屋染物店方吉野へ

◎高價買入—金、銀、債券
◎安價販賣—時計と眼鏡
◎親切勉强—時計のお直し

平驛前通り
星野時計店

貸切の●●
御用命は！
獅子吼（シシク）（四四九）ノ勢（イキホイ）デ
眞先（マツサキ）ニ……（マツサキ）
三九二（ミクニ）タクシーへ!!!

セメント
壁用材料
コールタール
ペンキ塗料
板ガラス
磐城セメント株式會社
代理店
西村屋藥舗
平町二丁目「電三」

本郡の在米高

出廻期にも品薄模様

平穀物檢査所に於て今回調査した管内の在米高を見ると平支所管内が六千六百五十三俵、勿來が千六百四十五俵、四倉が八百四十八俵、合計九千九百四十六俵で殆んど古米のみであるが本月下旬より十二月に掛けて新米が出揃ふと郡下の在米高は六七萬俵を數へるが出廻期の數字は決して多いものでない と因に各町村別の在米高は左の如くでである

平一〇八二　草野四四〇　神谷二六七　平窪二二七　上下小川二三一　赤井二八七　好間四一九　川前二一〇　三坂姐合村二三九　永戸組合村七八　飯野一八二　高久一九二　豊間四一　夏井二〇四　鹿島一五九　玉川二三七　小名濱八七　江名九二　内郷四九八　湯本五二五　磐崎二六二　渡邊七八　泉五一六　勿來二六三　植田一六一　錦一〇〇　山田一八〇　川部一〇一　上遠野四八九　入遠野二一一　田人一四〇　四倉二四九　大浦二八二　大野三一七

同校の名譽とする處なり依て其効績に酬ゆる爲め保護者相謀り記念として金側腕時計一ケを贈呈し茲に感謝の意を表す

無欠勤訓導に金側の腕時計

山崎興三郎氏が感謝狀を揮毫

過般石城郡教育部會より五ケ年無欠勤にて表彰された平第二小學校訓導先崎清氏に對し感謝狀及び記念品を贈呈すべく保護者代表の千葉彦治、大嶺庫、佐々木龍若、關内正一、高木喬諸氏發起の下に奔走の結果來月三日午後二時より同校講堂に於て一般父兄及び職員列席の上贈呈式を行ふ事になつたが左記感謝狀にスエッル製丸形金側の腕時計を添える筈にて感謝狀は山崎興三郎氏の揮毫に成るものであると

貴下多年初等教育に盡瘁せられ平第二小學校に職を奉する事十有二年恪勤精勵專ら懇切を以て兒童教化の任に膺り殊に今回は無缺勤精勵五ケ年以上に及びたる篤に依り石城教育部會より表彰せられたるは誠に他の模範にして貴下の榮譽のみをらず

巡査の鼻ッ端を金ツチで強打

強盜犯が逃走の途中けふ判檢事實地檢證

平支部荒井豫審判事及び小林檢事は今朝平發八時十九分にて淺野書記と共に双葉郡浪江に出張したが檢證事件の内容は秋田縣平辰郡睦合村大字谷地新田字沼田八十番地生れ目下住所不定佐藤惣吉(三〇)に係る強盜並公務執行防害事件にて被告惣吉は去月三十日双葉町浪江町大字權現堂新町菓物商水野文藏方に忍び入り就寢中の文藏をゆり起し現金八十二圓在中の手提げ金庫を窃取逃走の際駈付た阿部巡査の鼻ッ端を金槌で毆打重傷を負はせたものであると

棺前に行はれた感謝の表彰

葬儀費を節約し學校へ寄附

本社員坂本忠治君の母堂が六十七歳を以つて此程逝去せるは既記の如くであるが草野村の實家に在る同君の令兄元同村消防組頭坂本貞助氏は時節柄葬儀費を節して金一封を同村小學校基本金に寄附した爲め一昨葬儀の當日鈴木村長より感謝狀を贈られ棺前表彰が行はれた

取立貸金横領

平町鎌田町居住佐藤勇吉(三二)は豫てより同町須賀吾郎より貸金の整理を依頼されたのを奇貨として取立金八十餘圓を横領消費した事發覺目下平署で取調中

石城水産組合が犠牲者遺族救濟

町村長の後援で義損金募集

石城郡小名濱町水産試驗場内石城水産組合では廿三日午後一時より協議會を開き今回の暴風雨に犠牲となつた郡下各漁港の漁夫五十餘名の遺族に對し一般より寄附金を募集して見舞金を贈る事に決定したが同募集には町村長支會の後援を受ける事になつたと

廿數回の板の間稼ぎ昨日公判を

石城郡湯本町大字湯本字三函百六番地吳服行商谷川原敏(三二)が平田町梅ノ湯外より二十數回に亘つての板の間稼ぎ事件は昨日午後一時より平區才判所に於て竹内判事係り小林檢事立會の下に公判開廷檢事より懲役一年六ケ月求刑されたが言渡しは明日午前九時であると

殺人、放火公判延期

既報東白河郡大字流字門の内一番地生れ目下石城郡赤井村大字高萩木賃宿最上屋方和田新一(三)の殺人事件及び石城郡内郷村大字綴字堀坂二十五番地居住田村郡移村生れ日傭坂内クラ(四五)の放火事件の公判はいづれも明日平支部に於て開廷する筈の處辯護士の都合に依り來る二十九日に延期され午前午後の二回に分けて開廷されると

組織變更協議

石城郡植田信用組合では來る廿五日午後一時より植田小學校に於いて臨時總會を開き組織の變更に就いて協議するると

明日のラヂオ

仙台放送局　廿六日

今晩の部

▼後六、〇〇 子供の時間 お話「磁石」大貫賴次郎
▼後七、三〇 講演 外務省條約局長法學博士松田道一
▼後八、〇〇 放送新派劇 都築文男 木下吉之助一座
▼後八、五〇 連續講談「田宮坊太郎」第二席 早川燕平
▼後九、三一 日本棋院秋季大手合戰績
▼後九、四〇 全國ニュース 氣象通報 番組豫告
▼後九、三一 滿洲より「執政の御日常に就て」執政諮議中島比多吉

天氣豫報

今晩も明日も南東の風曇時々小雨模様

明日の部

▼前九、一〇 料理献立「里芋の木枯味噌」村井多賀子
▼前一〇、三〇 家庭講座「夫婦の覺悟」三輪田元道
▼後〇、〇五 俚謠
▼後二、〇〇 婦人講座「日本婦人と其社會的活動」文學博士中村孝也
▼後二、五〇 運動競技「明治神宮外苑トラックより中繼」立ラグビー試合狀況
▼後七、三〇 兒童唱歌コンクール 熊本縣芦北郡敷小學校 廣島市中島小學校 神戸市兵庫小學校 大阪市高津小學校 東京市杉並區杉葉小學校 名古屋山口小學校 東京市立町小學校 仙臺市東二番小學校 札幌師範附屬小學校 札幌市大通小學校 各兒童

平職業紹介所報告

回 人を求める方

△女中 三十才以下 尋卒 月六圓(平町某)
△兒守 十六才 尋卒 給料面談(平町某)
△出前持 二十才 尋卒 月五圓(平町某)
△外交員 五十才 高卒 給料歩合(平町某)

回 職を求める方

△洋服工 十六才 高卒 給料面談(内郷村某)
△女中 十九才 尋卒 給料面談(平町某)
△土工夫 四十二才 尋四 修〇給料面談(平町某)
△雜婦 五十才 尋卒 給料面談(平町某)

蓬來御殿

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉 演
近藤紫雲 畫

第二百八席　平手造酒

勢力の粹な扱ひ

勢力富五郎は留次郎の云ふ事を聞いて居りましたが富『オイ〳〵留さんお前は大分のぼせてゐるな、恁ふなつては醫者の療治では癒るめえ、まア〳〵阿父さんに苦勞させぬやうにあつさりと遊ぶがよい』

と意見をした、然し二人は夢中になつている事とてそれを有難いとは思はないいよ〳〵足を繁く留次郎は通ふ、この事を聞いて勢力富五郎が銚子に用事があつて行つた戻りに新生の留吉の所へきて想ひ合つた二人の仲、無粹な事をして二人を割くとあの樣子では情死をするであらう、潮來出島で浮名を流すは留次郎さんと雙鶴さんは本望だらうがお前さんは迷惑、玆は夫婦にしてやるが功德と云はれて此方も苦勞人、それでは是から雛鶴を受出して親にいひつけられた、およしと云ふ名を呼ばせ留次郎と一緒にした、二人は大喜び恁ふなつたも勢力さんの粹な扱ひゆえ折があつたらばこの恩返しをしたいと旦暮この事を云つた、所が今度飯岡の助五郎が身内

て不意に笹川に喧嘩を持ち込むと云ことを聞いた留次郎親子、玆で恩義を報ずる所と富五郎と繁藏の許へこの事を知らせた、斯くとは知らぬ助五郎、選び拔いた子分八十人を引伴れて夜に乘じ笹川に繰り出す事にしてゐた、このおりに政吉の小傳を申上げます房州館山は一萬石を領する稻葉但馬守の陣屋がある、城の無い所は陣屋と云ふ、この館山領の內州の崎、そこで漁夫をしてゐる政吉すると此村に磯右衛門と云ふ顏役が居る、顏役と申たとて博徒ではない、百姓ではあるが俠客と交際ひ村に何ぞ事が起ると口を利く、それ故親分々々と尊まれてゐた、前年女房は歿つて今年十一になるお定と云ふ娘と二人、寒くなく暑くなくその日を送るだけの資產はある、所磯で右衛門もまだ四十四五の男盛り折々白粉の匂ひを嗅ぎに館山の町に遊びにに行く、上總屋と云ふ料理屋にゐたおしんと云ふ江戸生れの今年二十三になる仇者を愛して馴染を重ね前借を拂つて之を後妻にしたが酒の相手には面白が一家の始末をさせるとなると甚だ缺點が多い、お酒を飲むと夜更しをする、朝寢をする、その上にお定を虐待する、悧巧な娘とて此家に居ては殺されるであらうと叔父の藤次の許へ逃げて行つた、此藤次は磯右衛門の弟でやはり此村に居る、營業は農作、兄弟思ひの堅い人物磯右衛門がおしんの色香に迷つてゐる事とてお定がおしんの虛待に堪えかねて藤次の許へ逃げて行つても心にも留めず相變らず鼻の下の距離を延ばしてゐた、とこの館山領は柿の產地磯右衛門も柿を培養してこれをば江戸へ送る、丁度九月の事でしたが隣村まで用達しがあつての戻り、夜の十二時頃に住ま居の裏手に來るとバタリと云ふ音がした何だらうとその音のする方を見ると柿の木に登り實を取つては落してゐる者がある闇夜の事とて年頃や風采は判らぬが取つてゐる事は能く見へる

磯『飛んでもねえ奴だ、此頃柿泥棒があると聞いてゐたが此奴だな、荒し廻るは他人の丹精した柿をとるとは冥利な惡事をする奴だ、こらしてくれよう』

と垣の崩れた所よりそつと忍び寄り乾物に用ひる竿を取つて

磯『この泥棒め』

と云ひながら脊を打つとキャツと云ふと此奴がスル〳〵とすべり落ちたが前にのめつてウーンと言つた

磯『コノ泥棒め、ヤイ汝は何者だ』

と云ひながら襟を押へて引立てゝ見てもダラリ首を垂れて何の答へもありません

たが一子分の洲の州の政吉が未だ見えぬ支度をして來ると云つて戻つた政吉もう來るであらう、まさか臆病風に誘はれて今夜の喧嘩を外すやうな者ではなからうそれにしても斯う遲いが何うした事であらうと心配し

平町二丁目
三井タクシー
電話六八五番

斯界の權威!!!
大塚の靴
學生靴　自製編上靴　六圓
女學生半靴　五圓
紳士靴　弊店自慢の流行新形
平田町
大塚製靴部
電話七七番

上田外科醫院
平町南町
電話一二九番

高級貸切……
不二タクシー
電・32

りん病　こしけ　永らく惱む人の福音
天下の名湯別府溫泉で出來た無効返金責任藥
笠原　特許　商標
里りん病こしけ別府淋藥
全國知名新聞雜誌推奬
こんなヨイクスリを未だ知らない方がありませうか
右は岩里家古來よりの家傳秘法藥にして男女血らし慢性淋病、こしけ、渦渦の病みは不思議に止り連服するも絶對胃腸傷害なき各葉であります。尙ほ此の藥は責任速効藥で二日內服して効なき時は殘藥引換に全部異議なく返金します。論より證據服藥した人は皆全快喜んで居ります。慢性、惡性の人は七日以上服差して下さい。此の新聞各記入申込者に付前金申込者には送料無料、新品送藥す。
◎美本淋病治療書無代進呈
代金引換廿三錢手數料金納の事。
藥價　急性用（黑箱）一週分參圓　慢性用（赤箱）一週分五圓
特約一手販賣　平町古鍛冶町一〇　阿原藥舗
縣社ノ下（電話四四番）

胃腸病妙藥
昔ハ料理ニ必ズ「シヽ茸」ヲ用タリ今ハアマリ使ハズ甚不都合ノ次第ナリ「シヽ茸」ヲ煎ジ臥寢前ニ服用スレバ胃腸ヲ整ヘ便通正シク氣分爽ナリ諸病ヲ未然ニ防グ効能アリ人助ノ爲メ廣告ス此ノ秋は茸類ノ出ル時節ナレバ新茸程効能著シ各家庭ニテ百匁位ッヽ常備シ置ク事肝要ナリ